

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）  
共同プロジェクト研究  
2025 年度研究【経過・成果】報告書

|                                    |                                  |   |           |   |           |   |           |   |
|------------------------------------|----------------------------------|---|-----------|---|-----------|---|-----------|---|
| 研究代表者                              | 所属部局・職名                          |   | 氏 名       |   |           |   |           |   |
|                                    | 文学部史学科・教授                        |   | 四日市 康博    |   |           |   |           |   |
| 研究課題                               | エジプト・フスタート（古カイロ）遺跡出土陶磁資料の再整理と再分析 |   |           |   |           |   |           |   |
| 研究組織<br>(研究代表者・研究分担者)<br>2026年3月現在 | 所属研究機関・部局・職名                     |   | 氏 名       |   |           |   |           |   |
|                                    | 沖縄県立芸術大学・美術工芸学部・教授               |   | 森 達也      |   |           |   |           |   |
|                                    | 出光美術館・学芸課・学芸課長                   |   | 徳留 大輔     |   |           |   |           |   |
|                                    | 東京都・教育庁・埋蔵文化財担当学芸員               |   | 井上 裕一     |   |           |   |           |   |
|                                    | 立教大学大学院・文学研究科・博士後期課程             |   | 殷 慈璟      |   |           |   |           |   |
|                                    | 立教大学大学院・文学研究科・博士後期課程             |   | 庄 嬌婷      |   |           |   |           |   |
| 全研究期間                              | 2024年度 ～ 2026年度                  |   |           |   |           |   |           |   |
| 研究経費※                              | 2024年度                           |   | 2025年度    |   | 2026年度    |   | 総計        |   |
| (上段：支出金額)                          | 1,190,835                        | 円 | 1,399,902 | 円 | 0,000,000 | 円 | 2,590,737 | 円 |
| (下段：採択金額)                          | 1,200,000                        |   | 1,400,000 |   | 2,000,000 |   | 4,600,000 |   |

※1 円単位で記入

研究の概要（200～300 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。）

当該研究の研究目的を含むこと。

【以下、報告書全体について】他の研究分野の委員が評価することも想定し、わかりやすく記載すること。

エジプト・フスタート遺跡はオールドカイロとも呼ばれ、13 世紀までエジプトの首都中心部として繁栄し、東は中国・東南アジア、西は地中海・ヨーロッパ世界から人・モノ・文化が流入し、東西交流の中心地のひとつであった。それは陶磁器研究・考古学の立場からも世界的に注目を浴び、エジプトと協力して日本の調査隊が大量の遺物を発掘した。しかし、その資料はこれまで諸事情により世間に公表されず塩漬けになったまま眠ってきた。近年、本学の四日市康博は、関係各位の承諾と協力を得て、早稲田大学考古学資料館に眠っていた陶磁資料調査・整理・公表する機会と権限を与えられた。本資料は中国を中心にアジア・イスラーム・地中海各地を包括する極めて重要な資料である。その全容が解明された暁には、歴史学・考古学・美術史・宗教学などに極めて大きな学術的寄与とインパクトを与えるであろう。

キーワード（研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。）

〔陶瓷の路（海のシルクロード）〕〔東西ユーラシア交流〕〔エジプト・イスラーム社会〕

**研究【経過・成果】の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

以下の視点を含めて記載のこと。

- ・当該研究は何をどこまで明らかにできたのか (できなかったのか)。
- ・何をもって研究成果 (経過) を達成できた (できなかった) と考えられるのか。  
自身が設定した研究目的・目標に照らして、その根拠がわかるよう記載のこと。
- ・どのような点において、当該研究分野の学術研究推進の高度化に寄与できたのか。

本庄早稲田の早稲田大学考古学資料館所蔵のフスタート出土遺物の中国陶磁片資料に関する悉皆調査をおこなうのが本共同研究の最も根幹となる部分であるが、昨年度までは、2024 年 9 月、11 月、2025 年 1 月、3 月の四度にわたって本庄早稲田で該当資料の再整理・撮影・分析をおこなったが、2025 年度は 2025 年 11 月と 2026 年 1 月の二度にわたって調査をおこなった。この作業は従来、数年間にわたって継続している調査であり、昨年度までにかかなりの部分の再整理・撮影を終え、2025 年度あるいは 2026 年度中には本庄早稲田所蔵分の資料の再整理・撮影が完了する予定であったが、実際、2026 年 1 月の調査をもって一応、全ての資料の確認と撮影を終了することができた。これによる再整理と分析の結果、1992 年に刊行された『アル・フスタート遺跡報告書』の内容に対し大きく修正をおこなった。具体的には、陶磁の産地、器形、年代などについて、旧報告書刊行から 30 年以上にわたる研究の進捗の成果から新たに特定・分類をおこなった。特に白磁に関しては、福建産の閩江流域の閩清窯産製品や沿海地域の連江窯産製品、また、青磁に関しては、甬田の庄辺窯産製品など倣龍泉窯青磁器の特定、景德鎮産青磁器などを特定することによって従来の知見を修正することができた。龍泉窯青磁そのものに関しても新安沈没船から出土した基準資料を編年の基準として、過去の編年分類に対して修正をおこなった。

今後の調査活動としては、今回まで記録した全ての資料と記録・データ・写真を再照合して、記録漏れや誤記がないか総チェックする必要がある。また、フスタートと並行する時期の各地関連資料の調査も引き続き行わなければならない。そのためには、2024 年度から 2025 年度にかけて分析・分類・撮影をおこなった資料のデータ入力を早急に進め、そのデータベース化および、データと資料の再照合の準備を整える必要がある。

また、本庄早稲田に所蔵されるフスタート出土資料の調査作業と並行して、日本各地および世界各地に所蔵されるフスタート並行期の関連資料を各分担者の専門に応じて調査し、資料収集とその整理を通じて、フスタート遺跡出土資料の相対化をおこなってゆく必要があることから、2025 年度も各地における資料調査をおこなった。2025 年 5 月 16 日～20 日にかけては中国の杭州博物館所蔵資料を特別に調査させていただき、また、浙江省博物館、臨安博物館、平湖市博物館、上海博物館 (新館) においても所蔵資料の調査をおこなった。5 月 20～21 日には那覇において那覇市教育

**研究【経過・成果】の概要 (つづき)**

委員会所蔵資料を、24 日には鎌倉市において鎌倉市教育委員会所蔵の鎌倉出土資料を特別に調査させていただいた。

また、本共同研究ではエジプト・イスラームと東アジアの宗教装飾の関連性の観点から東アジアの意匠や宗教思想との比較を視野に入れて調査・研究を進めているが、2025 年 6 月 6 日～8 日にかけて金沢大学でのモンゴル帝国期東アジア・東南アジアの宗教装飾に関わる研究会に参加し、羽咋の各寺院および石川県立博物館の所蔵資料の調査、2026 年 1 月 9 日～10 日には京都国立博物館、龍谷ミュージアム、大阪市立博物館、奈良国立博物館、東大寺ミュージアム、大和文華館において所蔵資料の調査をおこなった。さらに、2026 年 1 月 17～18 日には北鎌倉の建長寺において同寺の所蔵する出土・伝来資料の調査、1 月 23～25 日には沖縄県立芸術大学森研究室所蔵資料の調査をおこなう許可を特別にいただくことができ、調査を実施することができた。3 月 27～31 日には中国山東省の膠州、青州、済南において膠州市博物館、青州市博物館、済南市博物館、山東省博物館、駝山景観区駝山石窟、四門塔景観区四門塔・龍虎塔・千仏摩崖・墓塔群の調査をおこない、交流史・比較史の観点から重要な知見を得ることができた。

上述の調査・研究の成果は、中国・フフホトの内蒙古大学で開催された International Conference of the School of Mongolian Studies、立教大学で開催された International Workshop: Chinese Ceramics, Port Cities, and Caravan Routes in the North Coast of the Persian Gulf、中国・泉州で開催された中国古陶磁学会 2025 年度大会、京都・京都大学で開催された遼金西夏史研究会第 26 回大会などにおいて成果報告をおこない、共同研究外の研究者とも意見交換・情報交換や議論を重ねることができた。それらは、既に紙面において文字化されているものもあるが、順次、論文化して公表を行ってゆく予定である。また、本庄早稲田の所蔵資料調査の成果については、書籍化して簡易報告書を作成する準備を進めている。

なお、本共同研究は主に中国陶磁およびその関連資料を研究対象としているが、それ以外のイスラーム陶器・東南アジア陶器や各種工芸資料との関連性も非常に重要な研究視点となっている。このうち、イスラーム陶器に関しては、2025 年 6 月に同じくフスタート出土のイスラーム陶器資料群を研究対象としている早稲田大学の長谷川奏客員上級研究員(客員教授)の共同研究チームと協議の場を持ち、共同研究の方法やテーマなどについて話し合いをおこなった。また、2025 年 9 月にはイランから来日したシャヒードチャムラーン大学の Ali Bahranipour 教授とフスタート遺跡およびペルシャ湾ルートの陶磁器について共同研究をおこなった。

※この(様式 2)に記入の【経過・成果】の公開を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

**①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)**

YOKKAICHI Yasuhiro "On the Black Seals in Official Documents of the Yuan Dynasty and Ilkhanate." School of Mongolian Studies Inner Mongolia University, Proceedings. 2025.

-四日市康博「島原 本光寺蔵『混一疆理歴代国都之図』と海域世界」『なじまあ Accessible Asia』16, 2026. pp.18-19.

-森達也「沖縄出土の明代龍泉窯青瓷官器」『南島考古』44、2025、31-40 頁

-森達也「海底遺跡と琉球航路」『南島考古』45、2025. 9-11 頁

-徳留大輔「龍泉研究の近年の動向」『南島考古』45、2025、5-8 頁

-徳留大輔「日本における中国北方産陶磁器の流通と伝世に関する一考察—磁州窯系製品を中心に」『出光美術館研究紀要』31、191-224 頁、2026

**③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)**

ワークショップ「現代の茶業---『茶経』を読む (実践編)」立教大学人文研イブニングトーク、アジア地域研究所ワークショップ、立教大学、2025.7.18.

-Workshop: Chinese Ceramics, Port Cities, and Caravan Routes in the North Coast of the Persian Gulf. Tokyo: Rikkyo University, 2025.9.15.

-International Workshop:History of Tea and Coffee Cultures in Iran, China, and Japan.Tokyo: Rikkyo University, 2025.9.16.

-International Workshop:Huaya/Kaoh/Toghra' (Stylized Signature), Huaya Seal (Stylized Signature Seal), and Black Ink Stamp in the East and West Eurasia, Focusing on the Yuan Dynasty and Ilkhanid Dynasty. Tokyo: Rikkyo University, 2025.9.21.

-ワークショップ「現代の茶業---『茶経』を読む (実践編)」立教大学人文研イブニングトーク、アジア地域研究所ワークショップ、立教大学、2025.7.18.

**④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)**

四日市康博「ユーラシア・インド洋海域世界の環流構造を気候変動・社会危機から見る」14世紀の危機科研キックオフ・ミーティング、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、2025.6.27.

-YOKKAICHI Yasuhiro "On the Black Seals in Official Documents of the Yuan Dynasty and Ilkhanate." International Conference of the School of Mongolian Studies. Hohehoto: Inner Mongolia University, 2025.7.21.

-YOKKAICHI Yasuhiro "On the Relation between the Caravan Route of the Persian Gulf and the Maritime Trade Rote of Red Sea and Egypt." International Workshop: Chinese Ceramics, Port Cities, and Caravan Routes in the North Coast of the Persian Gulf. Tokyo: Rikkyo University, 2025.9.15.

-YOKKAICHI Yasuhiro "Huaya, Huaya Seal, and Black Ink Stamp of the Yuan Dynasty " International Workshop: Huaya/Kaoh/Toghra' (Stylized Signature), Huaya Seal (Stylized Signature Seal), and Black Ink Stamp in the East and West Eurasia, Focusing on the Yuan Dynasty and Ilkhanid Dynasty. Tokyo: Rikkyo University, 2025.9.21.

-四日市康博《新发现的布托哈内港 (“佛寺港”) 遗址中的中国陶瓷器》中国古陶磁学会 2025 年度大会、泉州、2026.11.29.

-四日市康博「元朝官衙の円署における花押と花押印」遼金西夏史研究会第 26 回大会、京都：京都大学、2026.3.22.

-森達也「新安沈船の陶磁組成」日本貿易陶磁研究会第 45 回研究集会、2025.9.13

-森達也「唐・元青花瓷器與西亜白釉藍彩陶器的对比研究」「青花の起源與全球流動」国際検討会、於：香港中文大学文物館 2025.11.20.

-MORI Tatsuya "The Palace of the Ryukyu Kingdom and Excavated Chinese Ceramics," International Symposium: One Hundred Years of the National Palaces. Istanbul, 2025.11.26.

-徳留大輔「關於日本境内中国北方陶瓷器的流通与伝世問題」2025 東亜陶瓷史研究国際検討会、中国 山西省考古研究院、2025.10.25.